

柏崎発暮らしのススメ情報誌

KASHIWAZAKI
Time

柏崎時間

見つけた、私の幸せ時間。



私のスタイルで 暮らす。

キラキラ光る海、潮騒、磯の香り

私の好きなもの

その街で暮らす幸せ

海にも、山にも近く

それでいて暮らしに便利な街

私にぴったりの柏崎

CONTENTS

3 特別インタビュー at KASHIWAZAKI

池谷 薫さん 遊佐 雅美さん

9 One Dayストーリー ある1日の柏崎の風景

11 柏崎イベントカレンダー

12 柏崎時間4つの物語

矢島 衛さん / 水戸部 智さん / 工藤 孝一さん / 荒川 亜弥乃さん

23 地元大学生が教えてくれた お気に入りの柏崎

25 安全・安心なまちを目指して ～消防の現場から～

27 柏崎市の移住・定住支援

29 柏崎市の概要

池谷 薫さん
遊佐 雅美さん
夫妻

【特別インタビュー】

KASHIWAZAKI

ライフガード※
柏崎ライフセービングクラブ 理事

池谷薫さん
Iketani Kaoru

ライフセーバー※
元ビーチフライングス世界チャンピオン

遊佐雅美さん
Yusa Masami



Profile

遊佐 雅美さん ●ゆさ まさみ

神奈川県川崎市出身。43歳。専門学校で授業で小糸力氏（現中央大学教授）が問いかけた「あなたの愛する人が目の前で溺れていたら、助けることができますか」ということをきっかけにライフセービングを始める。世界大会での優勝4回、全日本選手権大会では前人未到の17連覇を達成。2014年池谷さんと結婚。柏崎市に居住する。

※ライフガード、ライフセーバー
ライフセービング活動が盛んなオーストラリアでは、職業としてライフセービング活動を行っている人を「ライフガード」、ボランティアで行っている人を「ライフセーバー」と呼んでいます。

Profile

池谷 薫さん ●いけたに かおる

東京都杉並区出身。43歳。新潟産業大学在学中にライフセービングクラブを立ち上げる。オーストラリアで本格的にライフセービングを学び、帰国後ライフクアア-柏崎を設立。プロのライフガードとして活動する一方、ライフセービング競技会にも出場。2004年日本ライフセーバーオブザイヤー受賞。同年ライフセービング世界選手権で日本代表チームのキャプテンを務める。

見つけた！私の柏崎時間 この素晴らしさをみんなで楽しみたい

ライフセービングのメッカ
「オーストラリア」で
初めて出会う

—遊佐さんは競技者としての実績もあり、ずっと太平洋側で活動をされてきました。池谷さんと結婚して日本海側に来ることになつて不安を感じなかったですか？

遊佐：最初はライフセービング関係の友人しかいなくて「大丈夫かな」と少し不安でしたが、彼がいろいろな方たちと交流を深めてくれたので、こちらの生活にすんなり入ることができました。

池谷：私は1992年に新潟産業大学に入学したのですが、小さい頃からライフガードに憧れがあり、たまたま市役所が募集していたアルバイトに応募したんです。柏崎市は新潟県内で海水浴場の数が一番多いのですが、前年に県内で最も多く水難事故で犠牲者を出していました。私はそんなことも知らずに、知識も技術もほとんどないままライフセーバーとして過ごし、犠牲者ゼロでその夏を終えました。それで役所の方や関係者の方から活動を評価していただき、自分が感じたやりがいや大学の仲間と共有したいと考え、学内にライフセービングクラブを立ち上げたんです。柏崎の海水浴場を産業大の学生だけで

監視ができるくらい、どんどんメンバーを集めました。卒業後は東京に戻ろうと思っていたのですが、今まで我流でやってきたので、もう少しきちんとした形でライフセービングを地域に根付かせたいという思いが募り、ライフセービングの本場と言われるオーストラリアに1年間留学して専門的な知識と技術、考え方を学びました。そんなとき全豪選手権大会に出場することになり、ゴールドコーストに行くんですね。そこで初めて彼女に会ったわけです。





スタートから3~4秒で勝敗が決まるビーチフラッグスは、瞬発力・集中力・判断力が求められる

勝する」という目標をもつて来ていたので、それが全てという気持ちがありました。彼は爽やかな好青年といった印象で、同じ年だと聞いて「こういうすてきな人が新潟で頑張っているんだ」と思いました。

池谷：同じ年齢で同じ競技、同じ種目をやっているの、その後も会えばあいさつを交わして、98年・99年・2000年と3年連続で柏崎ライフセービングクラブが主催するローカル大会を開催したときは、ゲストとして来てもらいました。その後の12年間は大会会場で会うと「おう、今日も頑張ろう」ああ、元氣」とあいさつを交わす程度の関係でしたね。

見つけた！ 私の心地よい時間

遊佐さんは、その後国際大会で何度も優勝し、全日本選手権でも17連覇を達成するなど華々しい競技生活を送ります。2010年に突発性難聴に見舞われますが、翌年の全日本選手権で見事復活、優勝を飾ります。

遊佐：そのときは、あいさつを交わす程度でした。

池谷：彼女はその大会で優勝するんですが、私は「すごい女性だな」と思いました。

遊佐：オーストラリアには「全豪選手権で優

そして二人は2012年に結婚。柏崎で生活を始めます。

池谷：結婚当時、彼女はライフセービング界で「生きるレジェンド」と言われていました。私も「師匠」とか「仙人」とか呼んでいました。17年連続で優勝するなんて本当に「すごい人だ」と思います。ライフセービングはマイナー競技ですが、若い人は体育大学の学生や体力自慢で肉体を鍛えている人たちがたくさんいるので、その中で常に優勝し続けるというのは、本当にすごいことです。

——そんなすごい方に池谷さんが「柏崎に来てください」とお願いしたのですか？ それとも遊佐さんが「私、柏崎に行くわ」と？

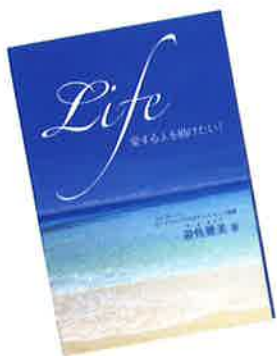
池谷：行くわって感じか？

遊佐：……。 (笑)

——いま、どんなふうに柏崎生活を楽しんでいますか？

遊佐：柏崎は、ビーチサッカー、水球、セーリング、スタンドアップサーフィン、シーカヤックなどが盛んな町なので、それらを通していろいろな方たちと交友を深めています。冬は雪が降りますが、トレーニングだと思って雪かきを楽しんだり、スノーボードを彼から教えてもらった。一年を通してスポーツを楽しんでいます。42kmの海岸線、砂浜があつて、どこでも練習できますし、陸上競技場やウエートトレーニング施設も整備されています。スポーツをする人にとっては、すごくいい環境ですよ。

遊佐さんは「海から徒歩圏内での生活には昔から憧れていた。……それに何よりも、ライフセービングを生業続けていくために」と著書『Life 愛する人を助けたい!』で書いています。



遊佐さんのお気に入り



鯨波海水浴場

市内には海水浴場が15あるが、遊佐さんのお気に入りは、水の透明度が素晴らしい鯨波。「最近は何島もいいなあ。挙げるタイミングがないですね」(遊佐さん)

柏崎市大学鯨波 ほか

池谷さんのお気に入り



海岸線に点在するサーフポイント

「サーフィンに限る間も楽しんで行きたいくらい好き」と池谷さん。荒浜海岸や中央海岸は、絶好のサーフポイント。関東の波は夏に立つが、日本海側のベストシーズンは秋から。「関東は混雑しているようですが、こちらは混雑もなく最高です」(池谷さん)



——今住んでいる家は、どんな家ですか？

池谷：中越沖地震(2007年)を機に購入した家ですが、砂浜まですぐ行けるので二人とも気に入っています。三階建てで、ベッドを並べると20名以上が宿泊できます。柏崎には、北海道や沖縄など全国からライフセーバーがやって来ますが、夏場は彼らの宿泊所として利用してもらっています。

遊佐：朝昼晩の三食はみんなで自炊しています。お米や野菜を自家菜園されている方たちが「今日、採ったからみんなで食べて」と持って来てくださったり、海水浴場の監視所に常駐している看護師さんがおにぎりを作ってくださいます。多くの方に支えられながら楽しくやっています。

——柏崎暮らしでいいなと思うことは？

遊佐：いっぱいありますが、一番感動したのは夕陽がきれいなことです。サーフィンが楽しめる青海川や岩場のある鯨波、遠浅で透明度のある石地など海も場所によつてさまざま

リンスポーツやウインタースポーツが楽しめるので、自然のある暮らしを満喫したい人には最高でしょう。ライフセーバーがいる柏崎の海は、夏は海水が30度もあつて波もなく駐車場やトイレもしっかり整備されているので、ファミリーが安心して楽しめます。透明度が高く太平洋側と比べたら比較できないほどきれいな海なので、シュノーケリングをするのにもってこいですよ。一度来た人は感動して、毎年来るようになります。

——すっかり柏崎に馴染んでいますね。

池谷：大学卒業後、全日本選手権に行ったら「柏崎の池谷」と言われたんです。どこに行くにも「今、柏崎の池谷が何位です」とくる。そのうち柏崎を背負っているという気持ちになり「自分は柏崎の人間なんだ」と思うようになると、いろいろな人とききあえるようになっていました。今考えると、こちらが協力をお願いしたときには、ご理解いただいてやりたいことをやらせてもらっていた気がします。突っぱねられることもありませんが、信用していただいているんだと感じています。

表情をもっているので、その日の気分に合わせて車でちょっと出かけたりしています。食事もおいしいですね。お米もお酒もおいしい。柏崎には酒蔵がいくつもあるので、出かけることもあります。試飲ができるのも魅力ですね。関東から友人が来ると、必ず連れて行きます。

池谷：柏崎の冬は雪がしんと降りますが、海沿いはあまり積りません。海もあるし山もある。不自由がない程度に何でもそろうから、「あまり田舎過ぎても困るな」という人には、結構住みやすいと思います。気軽にマ

